

カルタとり大会がありました

18日（水）から24日（火）の期間、生活集会委員会主催の「カルタとり大会」が行われました。3階会議室を会場に、昼休み時間を利用して、初日（18日）は低学年、2日目（20日）は中学年、3日目（24日）は高学年というように、ブロック学年ごとに分かれて行われました。

生活集会委員会の子供達の手作りカルタが床一面に敷き詰められ、委員会の子供達を読み手を担当しました。画用紙ほどもある大きな絵札を奪い合う子供達の歓声が会議室に響き渡っておりました。



写真は20日（金）の中学年（3・4年生）大会の様子です。大きい絵札なのですが、なかなか見つけられずウロウロしています。



「見つけた！」と一気に駆け寄りますが、全員お手つき(^_^)

「見つけた！」と当たり札を同時につかむ二人の子(^o^)

俳画づくりに挑戦しています

今年度は日本の伝統文化に触れる機会を子ども達に積極的に与える教育活動を推進してきました。前期は俳句&短歌づくり、後期は水墨画風年賀状づくりとしめ縄づくりというように、様々なジャンルに挑戦してきた子ども達。これらの作品は校内で掲示され、また、郵便局やハイリャンセという校外の場でも展示されました。（年賀状は郵便局に、俳句と水墨画はハイリャンセに展示していただきました。）しめ縄づくり教室では、保護者や地域の方々を講師としてお招きし、全校生が一堂に会して、しめ縄づくりを体験することができました。（今年のお正月は、お子様の手作りのしめ縄飾りを飾られたご家庭も多かったことと思います。）

さて年度末を迎えたこの時期、子ども達は「俳画づくり」という新ジャンルに挑戦中です。俳画とは、四季が織りなす自然の美しさをあっさりとした筆遣いで、素朴ながらも奥深い余情を表現するといった、日本伝統のアートです。星野富弘さんの花画集のような作品を想像していただければ分かりやすいかもしれませんが、星野さんのような緻密で繊細な表現ではなく、描く対象を端的にとらえ、略筆であっさりとした表現するのが俳画のポイントです。

現在、中学年以上の子ども達は作品を完成させ、低学年の子ども達が作品制作中です。完成品は額に入れて持ち帰らせますので、ご家庭のどこかに飾っていただければ幸いです。



小さな紙に書いた俳句を半紙の隣に置き、毛筆で清書します。筆数を控え、余白を生かして描くことで、味わいが出てきます。



描いた絵に色を置いていきます。少しぐらいはみ出しても平気です。最後に手作りの落款印を捺して出来上がり！



裏打ちが済んだ作品を、友達と協力しながら額（100円ショップで購入した簡易額です…）に入れています。額に入ると、より素敵な作品に見えるのが不思議です。これで完成！しばらく学校に飾らせていただきます。3月の授業参観の際にご覧ください。（春休み前に持ち帰りとなります。）